

令和 7 年 度

福島県青少年健全育成審議会（第 1 回部会）

議 事 録

令和 7 年 7 月 2 4 日（木）開催

令和6年度福島県青少年健全育成審議会（第1回部会）議事録

開催日時：令和7年7月24日（木）14時00分～15時04分

開催場所：チェンバ大町3階 会議室A

出席委員：12名

阿部泰宏、井上裕子、國岡美和、小島有里子、安田健治、佐藤達哉、
高荒由幾、中田和宏、七海圭子、山田真由実、吉田江理子、渡部純
（名簿順、敬称略）

事務局：4名

こども・青少年政策課 課長 斎藤康德
総括主幹兼副課長 朽木洋美
主任主査 渡部圭史
副主査 本柳健

審議内容：青少年の健全な育成を図る上で有益な書籍の推奨について

1 開会（14時00分）

2 斎藤課長挨拶

3 充足数の確認

事務局より、委員12名全員の出席があり、定足数（過半数：7名以上）を充足していることを報告

4 委員及び事務局の紹介

部会に初参加の井上裕子委員、小島有里子委員、安田健治委員及び渡部主任主査、本柳副主査から自己紹介

5 議事

（1）議長の選出

福島県青少年健全育成審議会規則第4条第3項の規定により、小島有里子委員が部会長に選出された。

同規則第4条第6項の規定により、小島部会長が議長となり審議を

執り行うこととされた。

(2) 議事録署名人の指名

議長からの指名により、高荒由幾委員と山田真由実委員の2名を議事録署名人に選出した。

(3) 青少年の健全な育成を図る上で有益な書籍の推奨について

事務局（渡部主任主査）より、採決方法（議長を除いた出席委員の過半数で可決）について説明。

○「おおなわ跳びません」

議長（小島有里子部会長）

- ・ はじめに「おおなわ跳びません」について審議したいと思います。委員の皆様何か御意見ありませんでしょうか。

吉田江理子委員

- ・ こちらは非常にいい本だと思いました。推薦してもよいと自信を持って言えます。

阿部泰宏委員

- ・ 何人もキーマンが出てきて、一人一人の内面が個性豊かに書かれていること、クラスというのは一つの社会ですから、その中でいろいろな考え方があって、自分本位だったり相手本位になって考えたりしている。一般社会に水平展開してもすごく学びになる本だと思いました。

井上裕子委員

- ・ 足の悪い子が、自分がおおなわ跳びの大会に出ない方が勝てるのではないかと思っているところをクラスのみんながそうじゃないと考え、ばらばらなクラスが気持ちを一つにしていくストーリーであり、実際のこどもたちが読んだらすごくいいだろうなと思います。
- ・ ハンデがある子がいるからということではなく、もっといろいろな問題をクラスで話し合ったり意見を出し合ったりすればまとまっていくんだよ、方向性が出てくるよっていうことを示してくれる本なので、すごくこどもたちに読ませたいと思う本でした。

國岡美和委員

- ・ 私もこの本はとても読みやすくて物語に引き込まれていくような感じで読ませていただきました。

こどもたちには、ぜひこの本を読んでもらいたいなという気持ちでいっぱいになりました。

渡部純委員

- ・ この本を出している静山社は、ハリーポッターの翻訳で有名な松岡佑子さんが経営する会社で、松岡さんは福島県南相馬市原町区で生まれ育った方です。この本はもちろんいい本だと思いましたが、福島にもゆかりがあるのでご紹介いたします。

議長（小島有里子部会長）

- ・ それでは「おおなわ跳びません」については、書評も皆さん全員推奨ですが、推奨する方は挙手頂いてもよろしいですか。

〈議長を除いた出席委員 11 名全員が挙手〉

- ・ それでは「おおなわ跳びません」については、推奨とします。
- ・ 続いて推奨対象ですが、出席委員の書評を確認しますと「小学生の中学年か高学年若しくはその両方」に重複して推薦している方がいらっしゃいますが、どのように判断したらいいでしょうか。

佐藤達哉委員

- ・ 小学生の低学年が読んでも理解できないと思いますので、少なくとも小学生の中学年以上がよいのではないかと思います。

高荒由幾委員

- ・ この物語を読んで話し合いの過程とか、いろいろな立場への思いやりとか視座を学んでいけるというのはやはり高学年ぐらいからと思います。
- ・ 早熟のこどもさんは4年生ぐらいから読めると思いますが、中学年だと3年生も含むので、小学校3年生ではなかなか難しいと思います。推薦するのであればやはり高学年が適当ではないかと考えます。

議長（小島有里子部会長）

- ・ それでは推奨対象を小学生の高学年とする方、挙手をお願いします。

〈議長を除いた出席委員 11 名全員が挙手〉

- ・ それでは「おおなわ跳びません」については、推奨対象を「小学生の高

学年」とします。

○「植物」をやめた植物たち

議長（小島有里子部会長）

- ・ 次に『植物』をやめた植物たちについて、審議いたします。
皆様何か御意見はありますでしょうか。

安田健治委員

- ・ 推奨でもよかったのですが、写真があまりにもリアルだったので抵抗を持つ子どもさんがいらっしゃるのかなと思い非推奨にしました。
- ・ 内容は面白くて興味深かったのですが、高校生とか年齢が高い子どもさんは特に問題ないとは思いますが、年齢が低い子だと気持ち悪かったりすることもあるかなと思いました。他の委員の皆様の御意見を聞いて、また検討したいと思います。

高荒由幾委員

- ・ 写真に関しては、おそらく素人の研究者が撮った写真で、学術的な価値はあるのかもしれませんが、映える写真ではないのは事実です。
- ・ 内容的には非常に高度で、小中高の先生が身近にいらっしゃるので、読んでもらった結果「難しい、小学生は無理だ。」という話を頂きました。
推奨しますが小学校高学年で光合成を習うので、小学校高学年からかなと思いました。

吉田江理子委員

- ・ 本当に植物が好きな子どもであれば、もっと多くの種類が載っている図鑑などの厚い本を見erと思いますが、この本を推薦する理由はどういう意味があるのでしょうか。

高荒由幾委員

- ・ 私は、入門編としてとてもいい本だと思います。
光合成をしない植物のメカニズムをきちんと描いていて、科学的な説明もされている。
- ・ この本の元は、小学生向けの「たくさんのふしぎ」という科学の入門編を毎月出してる雑誌なので、「たくさんのふしぎ」を手にとって、これ面白いなって思ったら次のステップに進みます。私は興味を持つきっかけを与えるために、このような本を提供することは重要なことだと思います。

渡部純委員

- ・ この本が少し難しく専門的なので、どういう子が手に取るのかなという想像力が及ばず、推奨か非推奨か決まらなかったのですが、確かにいろいろな可能性を持ったこどもたちが最初の1冊として手にとってそれぞれ興味を持ち始めるという意味での選択肢の一つでしたら、推奨してよいと思いました。

議長（小島有里子部会長）

- ・ 『『植物』をやめた植物たち』について、推奨という方は挙手をお願いします。

〈議長を除いた出席委員11名全員が挙手〉

- ・ それでは『『植物』をやめた植物たち』については、推奨とします。
- ・ 続いて推奨対象ですが、先ほど内容が難しいという話がありましたが、小学校高学年、中学生はいかがでしょうか。

高荒由幾委員

- ・ 確か県立図書館からの推薦は小学校中学年だったかと思います。
- ・ 今年の春まで小学校の校長先生をしていた方のお話を聞くとやはり中学年は無理だ、頑張って高学年だ、というお話でしたので、高学年が適切かと思います。高学年推奨にすれば恐らく中学校から高校の人たちも手に取ってくれるので高学年かなと思います。

議長（小島有里子部会長）

- ・ 小学校の高学年からという意見がでましたが、推奨対象を小学校高学年からという方、挙手をお願いします。

〈議長を除いた出席委員11名全員が挙手〉

- ・ それでは『『植物』をやめた植物たち』については、推奨対象を「小学生の高学年からそれ以上」とします。

○ こてんちゃんがきた！

議長（小島有里子部会長）

- ・ 次に「こてんちゃんがきた！」について、審議します。皆様何か御意見

ありますでしょうか。

安田健治委員

- ・ 天狗というのがこどもたちにピンとくるのかなと思います。
多様性を認め合うという意味ではすごくいい内容とは思いますが、こどもたちがクラスに天狗の子がぽんと来て、違いを認め合おうみたいなのところにうまく内容的に結びついていくのか、ちょっと現実離れしているかなと思いました。非推奨にさせていただきましたが、皆さんの御意見をいろいろ伺いたいと思います。

井上裕子委員

- ・ 私たちがこどものときは、天狗の話はいろいろありましたけど、今のこどもたちは天狗について馴染みが薄いと思うので、何これってなるのかなと思いますが、自分と違ってみんな仲良くして力を合わせることが大事なんだよってことを教えてくれるのが、この本の趣旨と考えると私は推奨したいと思います。

吉田江理子委員

- ・ 例えば外国から来た方とか、障がいを持っている方がクラスに入ってきたりとか、4月に初めてクラスメイトになったという場合に、どうしたらいいかという戸惑いをイメージして天狗としたのかなと思います。
- ・ 今の多様性の時代にマッチしていて、低学年のこどもたちも学校の担任の先生が天狗について説明をしながら朗読で読んでみたりすると理解できるのではないかと思います。

議長（小島有里子部会長）

- ・ それでは、「こてんちゃんがきた！」について推奨でよいとお考えの方は挙手をお願いします。

〈議長を除いた出席委員 11 名全手〉

- ・ 全員なので「こてんちゃんがきた！」については、推奨といたします。
- ・ 続いて推奨対象ですが、皆さんの意見は小学校の低学年が1番多いということもありますので、小学校の低学年としてはいかがでしょうか。
小学生の低学年でよいという方は挙手をお願いいたします。

〈議長を除いた出席委員 11 名全員が挙手〉

- ・ それでは「こてんちゃんがきた！」については、推奨対象を「小学生の低学年」とします。

○ せかいいちのおおどろぼう

議長（小島有里子部会長）

- ・ 次に「せかいいちのおおどろぼう」について、審議いたします。
皆様何か御意見ありますでしょうか。

井上裕子委員

- ・ まず大泥棒って「泥棒」ですよ。
その大泥棒に盗ませて問題を解決しようとする話は、こどもの本としていいのだろうかというのがまず率直な私の第一印象でした。
そして、やはりこの問題解決というのは、自分がまず何とかしなくちゃいけないけど自分の力では駄目だから、みんなで力を合わせようというのが大事だと思います。大泥棒に任せれば何でも解決するという本は私は推奨できません。

高荒由幾委員

- ・ やはりそもそも「盗む」なんですよ。
泥棒を扱ったこども向けの本はありますが、それは泥棒と対峙するストーリーで悪いやつをやっつける、あるいは知恵比べをする過程を楽しんでいくものであって、盗みを是とする話を初めて読みました。
この本は孫に読めないなと思いますし、県知事名で推薦するのはどうかと思いました。
大人が読めば、盗むっていうのはいろいろ問題を解決することの言い換えなんだなっていうのは分かりますが、これを読み聞かせられたこどもは「盗みはいいんだ。」ってなりますよね。
それはやはり避けるべきことだと私は思ったので、端的に駄目だと思います。

中田和宏委員

- ・ 自分は盗みということを主張してる本ではないのかなと理解しています。
- ・ 実際のところその大泥棒が盗んだものは、誰かに危害を与えているものではないので、盗むのがいい悪いという話ではなくて、そこからもう一歩進んだ豊かさとは何かということを問いかけている本だなと理解しました。

盗むのは悪いことですが、盗むという行為を良しとしてるという本ではなく、このようなユニークな本もいいのかなと感じました。

七海圭子委員

- ・ 私も、何か盗むっていうことで村が豊かになっていくロジックがうまく自分の中で消化できなかったのは、盗むってそもそも駄目だよなってこととつながっていたのかなと今、皆さんのお話を伺いながら思いました。
- ・ ただ、言葉のリズムとか、いろいろな盗みのアイデアも相まって、読んだ後はこれでよくなるんだみたいな不思議な気分になりました。

本では、ものを盗んで与えており、その地域の課題解決とか持続可能性を高めるのにお金だけを与えても駄目ですが、仕組みを与えていくと自分たちの力で解決していけるようになるんだっていうところを知ってもらえるストーリーはとても良いと思います。

盗むというところは、どのように考えればよいか悩んでいるところです。

山田真由実委員

- ・ 私も最初この本を手にとったときに泥棒と盗みという言葉が引っかかりました。大人の偏見でやはり泥棒は悪いんだろうなという想像で読み始めましたが、泥棒がヒーローのように変化していく様子が描かれていました。

読み終えたときに自分の偏見が、泥棒のアイデアとか、村人との関わりとか挿絵とともに自分の心情も変わっていき、もう泥棒という違和感が読み終えた時は自分の中にはなくて、幸せって何なんだろうとか、これってやっぱりこどもと一緒に大人が読んで考えさせる内容と感じられた本だったので私は推奨にしました。

ですが、大泥棒とか窃盗っていう入り口に違和感があったのは確かです。

吉田江理子委員

- ・ 確かに問題解決しようとするときに泥棒に盗ませて、丸投げするような感じはこどもたちにどうなのかなと違和感があって、県知事の名前で推奨するには悩むところがあります。

推奨にはしましたけど、やっぱりこれは良くないなと思いました。

渡部純委員

- ・ いろいろな意見があって、面白いなと思っています。

本の読み方は自由なので、言葉一つでもいろいろな意見が出ますし、私は、多様性としても問題提起の本としてもいいのかなと思います。

佐藤達哉委員

- ・ まず、これは絵本だということです。

単なる小説ではなくて、こどもが見て、きれいだなとか楽しそうだなとか、何かこどもに感じてもらうことが大切です。

そのためには、これを1人で読むのではなくて、お母さんやお父さんが一緒に本を読み聞かせて、解説しながら読むのにはいい教本だと思います。

この本を読むと大人が反省させられるので、自分たちの生きてきた反省を踏まえて、こういう大人になってはいけないのよと教養につながって、こどもたちにいい影響を与えることなのかなと思います。私としては小学生低学年に推奨ということにいたしました。

安田健治委員

- ・ 本の中身も面白くて非常に分かりやすくていいなと思いました。

私は、自分で高校生の国語を担当していますけれども、高校生にも読ませてみて、いろいろ考えさせたりするのにとてもいいのかなと思います。

- ・ 中身まできちんと読めば、本当にいい本だなんて分かってもらえると思いますが、知事の名前で推奨として書店に並んだり新聞に出ると、泥棒のところを断片的に切り取って判断されたり、いろいろ問題も出てきたりする面もあるかなと思ったので、悪い本ではありませんが、公的というところで考えるとちょっと難しかったりするのかなと思いました。

國岡美和委員

- ・ 私も絵本としてはとても面白い本だと思います。

絵もとてもきれいだし、書店で棚に飾っておくのもいいかなと思いますけど、やはり泥棒とか盗みはちょっと抵抗があります。

なかなか判断が難しく、推奨にはしましたが、今ははっきりと推薦したいという気分ではちょっとなくなってきたという感じです。

阿部泰宏委員

- ・ 泥棒が例えばいい魔法使いだとか、ドラえもんだったら全然問題なく推奨なんだろうなと思いました。

ただ自分が小さい頃は、ルパン三世とか、ネズミ小僧とか言わば社会のアウトローでもやはり善を施すアンチなヒーローに憧れたなっているのは自分が男の子だったので特に全く違和感なく読んでいました。

- ・ この本を非推奨にしようかなと思ったのは泥棒だからという観点ではなく、何でもかんでもこの泥棒に与えられてしまっているプロット、特にイ

ンターネットによって世界の垣根が取り払われることは無条件にいいことだ、何でも泥棒が与えるものはいいものだみたいなアンビバレント的に考えさせるものはどうなんだろうと、ちょっと引っかかりました。

でも、あまり難しく考えなくていいかなと思って推奨にした感じです。

中田和宏委員

- ・ 今、皆さんの話を聞いてちょっと引っかかったのが、知事推薦だからっていうお話が幾つか出ましたが、我々の考えとしては、根底にあるのはこどもに読んでほしいか見てほしくないかであって、知事推薦という話はまた別なのかなと個人的に思いました。

皆さんそこにちょっと引っ張られ過ぎているのかなと思います。

やはり皆さんの読まれた感性として、これをこどもに読ませたり読んであげたいという思いの方が我々としては大切にすべきなのかなと感じた次第です。

議長（小島有里子部会長）

- ・ 意見が出尽くしたようですので、多数決をとらせていただきます。
「せかいいちのおおどろぼう」について推奨でよいとお考えの方は挙手をお願いします。

〈議長を除いた出席委員 11 名中 6 名が挙手〉

- ・ 6 名なので「せかいいちのおおどろぼう」については、推奨といたします。
- ・ 続いて推奨対象ですが、先ほど意見がありましたが、保護者も一緒に読めるような形を想定し、幼児、小学生の低学年でよいという方挙手していただいてよろしいでしょうか。

〈議長を除いた出席委員 11 名中 6 名が挙手〉

- ・ それでは「せかいいちのおおどろぼう」については、推奨対象を「幼児、小学生の低学年」とします。
- ・ 以上で、「青少年の健全な育成を図る上で有益な書籍の推奨」についての審議を終了します。
- ・ 今回の審議の結果につきましては、後ほど文書をもって知事に答申することといたします。

- ・ それでは、進行を事務局にお返ししたいと思います。
審議に御協力いただきありがとうございました。

事務局（朽木総括主幹）

- ・ 小島部会長、ありがとうございました。
以上をもちまして、令和7年度第1回青少年健全育成審議会部会を終了
します。

以上の議事の顛末を記録し、これを証するため、指名を受けた両委員が署名
捺印する。

令和7年 8 月 28 日

署 名 委 員

高 荒 由 幾



令和7年 9 月 3 日

署 名 委 員

山 田 真 由 実

